



## ネット社会

最近、いろいろな書評で評判がイイのが、元大阪大学総長で現在京都市立芸術大学学長の鷺田清一さん（一年の時、国語総合で「身体、この遠きもの」をやりましたな）と、京都大学総長の山際寿一さんの対談『都市と野生の思考』（インターナショナル新書、2017）である。通勤途中で本を読み終わってしまったため、駅の本屋さんで購入して読み始めたが、評判通り面白い。ちなみに、鷺田清一さんは臨床医学・倫理学などを専門とする哲学者、山際寿一さんはゴリラ研究の第一人者で霊長類学、人類学者である。引用してみよう。

\*

鷺：僕らはともかくとして、携帯はコミュニケーションのあり方を変えましたね。

山：人間のコミュニケーションは本来、生物学的な感性と文化的な感性、それと科学技術が渾然一体となって行われるものです。生物学的感性とは五感のことです。五感は、人と接して面と向かい合うからこそ得られる感覚で非常に重要です。文化的な感性は、相手の言葉、服装、態度、仕草などで表現されるアイコンニック（図像的）なもので、これもコミュニケーションにおいては欠かせません。科学技術はこれをサポートするものだったわけですが、今はこの技術だけがどんどん先行してしまっている。赤ちゃんはまず生物学的な感性だけでコミュニケーションを始め、成長するにつれて文化的感性を学びながら能力を高めていくわけです。ところが今はそうした過程をすっ飛ばして、いきなり科学技術だけでコミュニケーションを始める。

鷺：ネット上でのやりとりだけでは、生物学

的あるいは文化的感性が抜け落ちてしまいますね。どうすれば相手が気持ちいいようにコミュニケーションできるかを学んでいない。ことに今の情報技術は、使い方が最初から決まっているから、学ぶというよりも身につけるものになってしまう。

山：科学技術だけのコミュニケーションには、感性の裏づけがないから過剰反応してしまうわけですよ。（中略）だから、この言い方は自分をからかっているのではないとか、何か恨みでもあるのではないかと憶測に走ってしまう。対面していれば伝わるニュアンスが、ネットだと抜け落ちてしまう。だからネット上ではまともな議論が成立しにくいし、せいぜい「いいね！」ぐらいしか言えない。だからといって情報技術抜きにして、もやは社会は成立しません。情報技術だけが突出してしまって、文化的感性や生物学的感性が追いついていかない現状は非常にアンバランスだと思います。

鷺：しかもネット社会では、いざとなったら簡単におりられるというか、リセットできるとみんな思っている。人間集団でも家族以外は簡単にリセットできるのが現状です。そういう社会はやばい。みんながいつでもおりられると考えている社会ほど面白いものはない。

\*

この部分では特に目新しいことが述べられているわけではないが、それでも「学ぶというよりも身につけるもの」、「おりられる（リセットできる）社会」といった指摘は、やはり慧眼であると思う。ぜひ、一読を。